

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について（速報）

綾瀬市教育委員会

1 令和7年度 全国学力・学習状況調査実施状況の概要

- 小学校6年生と中学校3年生を対象に、令和7年4月17日（木）に実施された全国学力・学習状況調査の結果について、その一部を公表いたします。
- 調査内容は、教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）と児童・生徒質問紙調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査）、学校質問紙調査（学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査）です。
- 教科に関する調査内容は、①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等となっています。また、調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととし、出題形式については、記述式（短答式を含む）の問題を一定割合で導入しています。

2 結果の概要

- 教科に関する調査では、小学校の国語、算数、理科については、全国平均正答率と比べて下回りました。
- 中学校の国語、数学については、平均正答率が全国平均正答率と比べてやや下回り、理科については、平均IRTスコアが全国平均IRTスコアと同程度でした。

○教科に関する調査の平均正答数（問）・平均正答率（％）

綾瀬市	小学校			中学校		
調査教科	国語	算数	理科	国語	数学	理科
平均正答数	8.5/14 問	8.0/16 問	8.7/17 問	7.1/14 問	6.8/15 問	494
平均正答率	61%	50%	51%	51%	45%	(平均IRTスコア)

※中学校理科はCBTで実施し、IRT(項目反応理論)に基づき算出したスコアにより結果を表示しています。

- 教科に関する調査について、本市の全国学力・学習状況調査から見られた「概ねできている（良好）」点については次のとおりです。
 - ・国語において、小学校では、「図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」などが概ねできていました。また、中学校では、「文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えること」などが概ねできていました。
 - ・算数・数学において、小学校では、「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすこと」などが概ねできていました。また、中学校では、「必ず起こる事柄の確率」について概ね理解していました。
 - ・理科において、小学校では、「赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現すること」などが概ねできていました。また、中学校では、「ストローの太さと音の高低に関する

情報を収集してまとめを行う学習活動の場面で、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能」などが概ね身に付いていました。

○教科に関する調査について、本市の全国学力・学習状況調査から見られた課題については次のとおりです。

- ・教科に関する調査の問題形式（選択式、短答式、記述式）からは、特に短答式、記述式が全国平均正答率を下回る傾向があることに課題がありました。
- ・小学校において、特に短答式、記述式の無回答率が全国平均より高くなっていることに課題がありました。
- ・国語において、小学校では、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること」などに課題がありました。また、中学校では、「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えること」などに課題がありました。
- ・算数・数学において、小学校では、「基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できる」ことなどに課題がありました。また、中学校では、「式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明すること」などに課題がありました。
- ・理科において、小学校では、「身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いている」ことなどに課題がありました。また、中学校では、「【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できる」ことなどに課題がありました。

3 今後の対応

○今回の調査において、概ねできていると認められる成果については一層の充実を図り、課題については対策を示し改善に努めます。